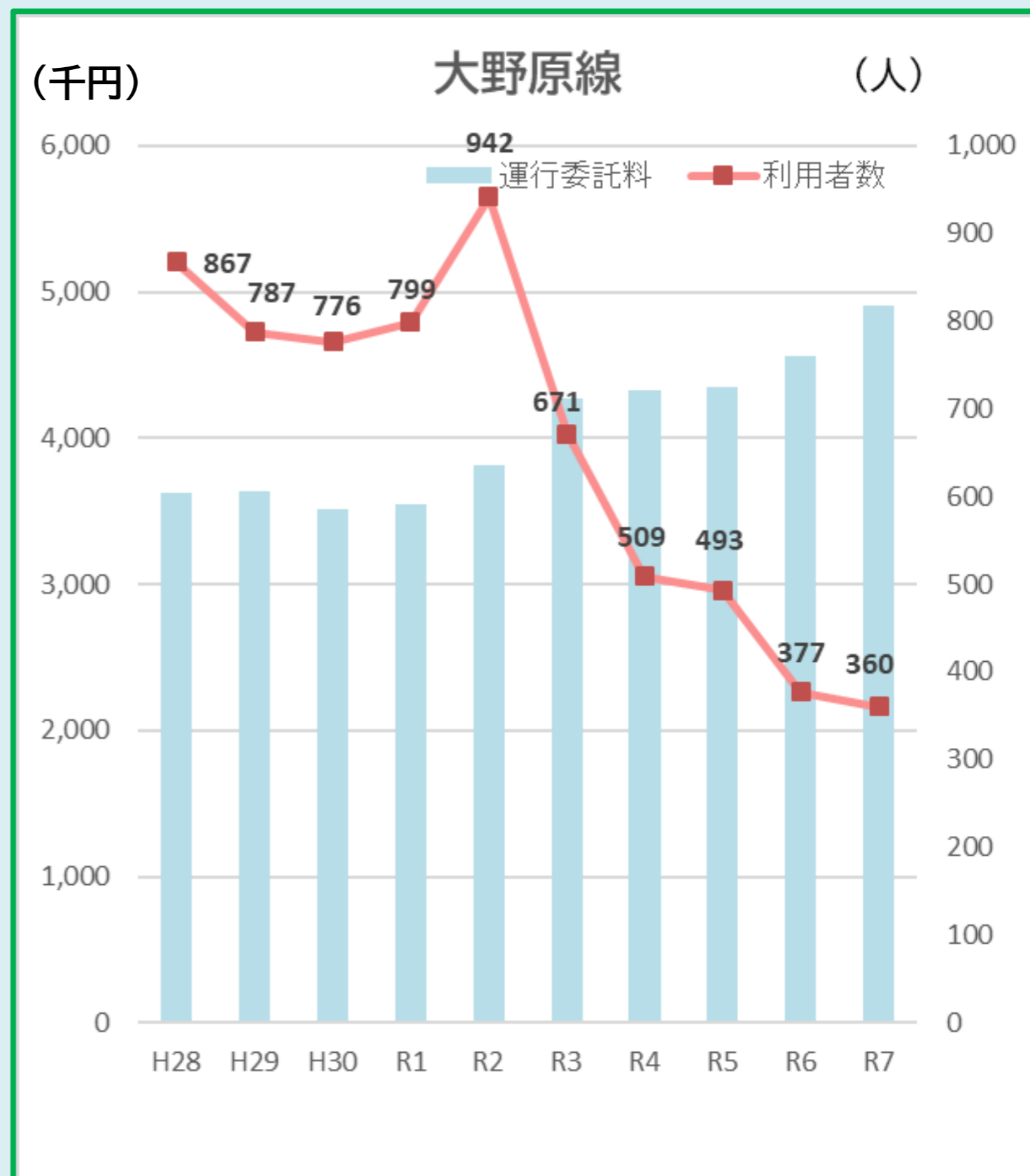
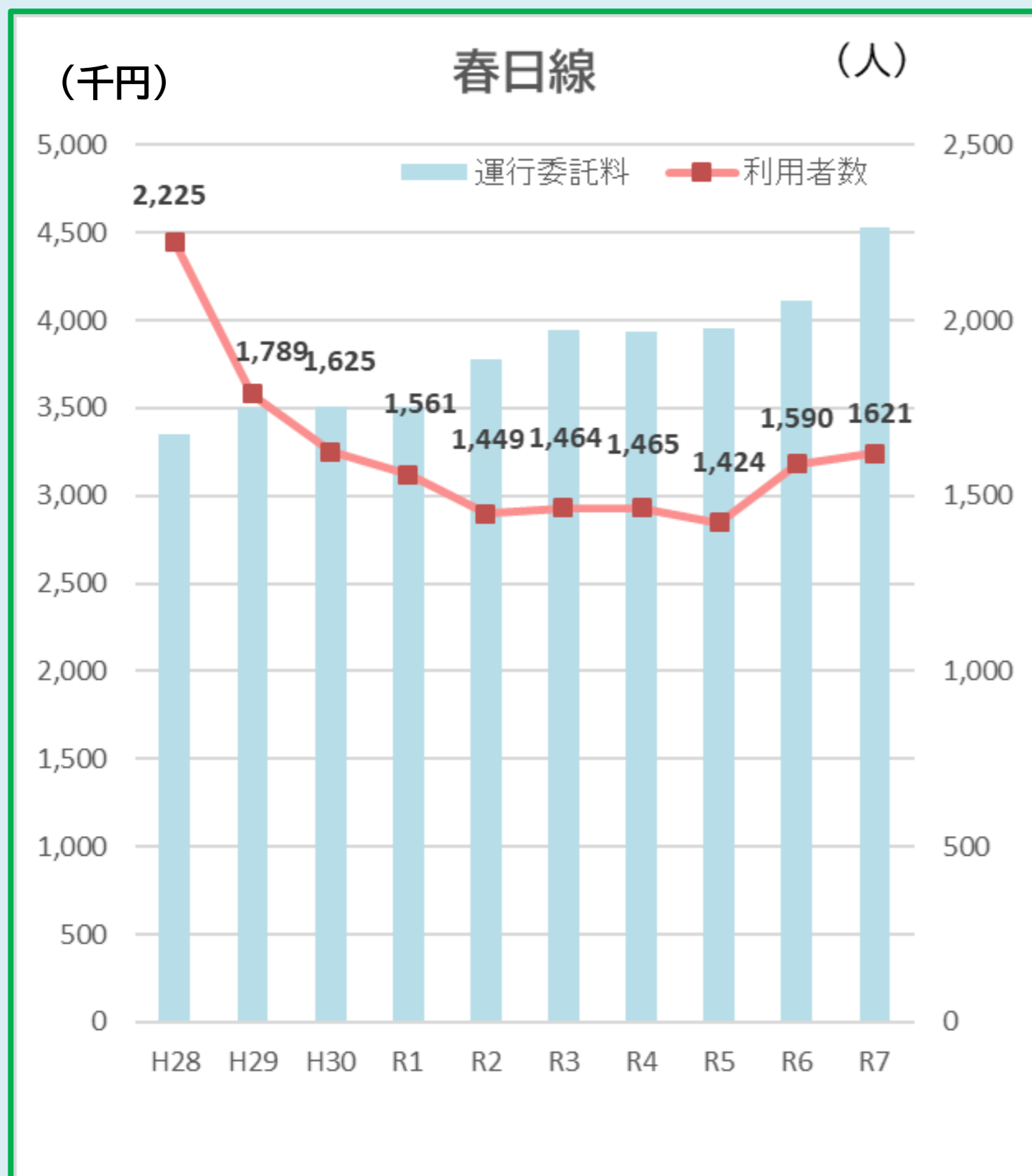


令和7年度地域公共交通確保維持事業 (乗合タクシー-春日線・大野原線)実績について <R6.10月~R7.9月>

1. 事業の背景・目的・運行形態	1
(1) 事業の背景・目的	1
(2) 運行形態	1
2. 利用者の推移	2
(1) 各路線の利用者の推移	2
3. 令和7年度以降の取組について	3
(1) 全体的な課題	3
(2) 個別の課題	3

2. 利用者の推移

(1) 各路線の利用者の推移



3. 課題とこれからの取り組み

(1) 全体的な課題

- ✓ 春日線の利用状況については、R6年度比で31人の増加、一方大野原線については、R6年度比で17人の減少
- ✓ 路線を維持していくためには、既存利用だけでなく新規利用の確保が必要となる
- ✓ そのため、老人クラブでの出前講座や、運賃無料期間の実施、沿線地域への定期的な時刻表の配布などを行い、公共交通に対する市民の意識を向け利用促進を図る

(2) 個別の課題

■乗合タクシー春日線

- ✓ 固定の利用者が日頃から利用
- ✓ 令和6年2月より運賃を100円値引きしたことによる利用者増
- ✓ 一方で、無料の福祉バス「ヨッシー号」と一部区間が重複
- ✓ このためサービスの統合について庁内(福祉課)で検討を進めて行く必要がある
→令和7年度より、福祉バス「ヨッシー号」について協議を開始

■乗合タクシー大野原線

- ✓ 利用者が年々減少(固定利用者の減少)
- ✓ 国庫補助の要件(1便あたりの乗車人数が2人以上)を下回り、補助金は不交付
- ✓ 乗車がない便も見られ、定時定路線は需要に応じた交通体系ではない
- ✓ このため運行形態を見直し、朝一便を除き予約があったときのみ運行する、路線不定期運行にR7年10月から移行している
- ✓ なお、再編後の利用状況を見ながら、より地域に適した運行形態を検討していく